

キリストの増し加わりは、召会の増し加わりと開展のためであり、
一つ思いを通してであって、祈り、その霊、御言、家を伴っている

聖書：使徒 1:14. 2:46. 4:24. 5:12. 15:25. ローマ 15:6.

I コリント 1:10. ピリピ 1:27. 2:2. 4:2

I. キリストの増し加わりを持って、召会を増し加え開展させるために、わたしたちは一つ思いを持たなければなりません。「一つ思い」のギリシャ語は、「ホモスマドン (homothumadon)」であり、「ホモ (homo)」、すなわち「同じ」と、「スモス (thumos)」、すなわち「思い、意志、目的 (魂、心)」から成っています：

A. 一つ思いは、新約におけるあらゆる祝福に対するマスターキーです。一を適用することはそれを保つことであり、それを保つことは一つ思いを実行することです——使徒 1:14. 2:46. 4:24. 5:12. 15:25. ピリピ 1:27. エペソ 1:3. ローマ 15:29。

B. わたしたちは一つ思いを持つために、一つの事を顧みる必要があります。主の回復における一つの事、唯一の事は、神の永遠のエコノミーであり、キリストを中心性また普遍性とすることです——コロサイ 3:10-11：

1. 主の回復の中で、集中し、強調され、供給されるべきである一つの事は、神の永遠のエコノミーです——I テモテ 1:3-4。

2. 神の永遠のエコノミーの内容はキリストです。実は、三つの時機の満ち満ちた務めにおけるキリストご自身が、神聖なエコノミーです——ヨハネ 1:14. I コリント 15:45 後半. 啓 1:4. 3:1. 4:5. 5:6。

3. 神の願いは、キリストのパースンの純粋で完全な回復を持つことです——コロサイ 1:17 後半, 18 後半. II コリント 12:2. 2:10. 3:3。

C. ピリピ人の手紙における「一つの事」は、キリストに対する主観的な知識と経験を指しています。「一つの事」は、キリストを追い求めて彼を獲得し、彼を捕らえ、彼を所有することです——ピリピ 1:20-21. 2:5. 3:7-14. 4:13：

1. キリスト、キリストだけが、わたしたちの全存在の中心性と普遍性であるべきです——コロサイ 1:17 後半, 18 後半。

2. わたしたちの思うことは、キリストに対する卓越した知識と経験に集中すべきです。他の何に集中することも、わたしたちに異なることを思わせ、こうしてわたしたちの間で異議を創り出します——参照、I コリント 1:10. ピリピ 4:2：

a. 「どうかあなたがたは同じ事を思い、同じ愛を持ち、魂において結合され、**一つの事**を思って、わたしの喜びが満ちるようにしてください」——ピリピ 2:2。

b. 「わたしは、すでに得たとか、すでに完成されているとか言うものではありません。わたしは、それを捕らえようと追い求めているのですが、それはわたしが、キリスト・イエスによって捕らえられているからです。兄弟たちよ、わたしはまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ**一つの事**、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリスト・イエスの中でわたしを上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています」——3:12-14。

c. 「マルタ、マルタ、あなたは多くの事で思い煩い、心配している。しかし、無くてならないものは、ただ一つである。マリアはその良い分を選んだのだ。それを、彼女から取り上げてはならない」——ルカ 10:41 後半-42。

d. 「わたしは**一つの事**をエホバに願いました。わたしはそれだけを求めます。わたしの命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを」——詩 27:4。

D. わたしたちはエペソ第 2 章 15 節の「一人の新しい人」を、ローマ第 15 章 6 節の「一つの口」、また I コリント第 1 章 10 節の「同じ事を語り」と一緒に考える必要があります：

1. 一人の新しい人としての召会のために、わたしたちはみな語る事柄において、キリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——マタイ 12:34-37. エペソ 3:17 前半. ヨハネ 7:16-18. 8:28, 38 前半. 12:49-50. 14:10。
2. 全聖書は一つの口を持っており、同じ事を語っています——ヘブル 1:1-2 前半。
3. 今日のキリスト教には多くの口があり、各自は異なる事を語っています。あらゆる伝道者が自分自身の事を語ることを願い、他の人が語ったことを語るのは恥と考えるのは、あわれな状況です——創 11:7, 9。
4. 過去あまりに多くの口があったのは、あまりに多くのパーソンがいたからです。
5. 一人の新しい人には一つの口があって、同じ事を語ります——ローマ 15:6. I コリント 1:10。
6. ただ一人の新しい人があり、一人の新しい人にはただ一つのパーソンがあるので、一人の新しい人は一つの口で語り、同じ事を言います。
7. 「一つ思いをもって」と「一つの口で」（ローマ 15:6）が意味するのは、わたしたちは数が多く、みな語っていても、わたしたちはみな「同じ事を語」ということです——I コリント 1:10：
 - a. 召会是一人の新しい人であり、ただ一つのパーソン（キリスト）を持っており、このパーソンはわたしたちの語ることを支配します。ですから、彼が語ることは何であれ、必ず同じ事です。
 - b. わたしたちは語ろうとするとき、基本的な問題を解決する必要があります。この語る事柄で、わたしがパーソンでしょうか、それともキリストがパーソンでしょうか？
 - c. わたしたちは語ることで自分自身をパーソンとせず、キリストにわたしたちのパーソンとなっていていただくなら、一つの口があり、みな同じ事を語るでしょう。
8. 一人の新しい人にはただ一つのパーソンがあり、このパーソンだけに語る自由があります——マタイ 17:5：
 - a. 一人の新しい人の中で、わたしたちには自分自身の事を語る自由はありません。
 - b. 主イエスには語る絶対的な自由があり、わたしたちの天然の人には絶対的に語る自由はありません。
9. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていますが、わたしたちはみな一つの口を持ち、みな同じ事を語ります。これは、わたしたちがみな一人の新しい人であり、ただ一つのパーソンを持っているからです——エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17

前半．ローマ 15:6． I コリント 1:10。

10. ただ一種類の務めだけが建造し、決して分裂しません。これは神のエコノミーの唯一の務めです—— I テモテ 1:3-4 :

a. 「人の高ぶりは、常に自己を他の人と異ならせることを好みます。あなたは一つの事を語りますが、わたしは自分の高ぶりのゆえに、あなたが語ることを決して語ろうとしません。わたしはあなたが語ることとは異なる事、新しい事、さらに良い事を語りたいのです。これは自己であり、これは肉的な高ぶりです」(神聖なエコノミー, 第 14 章)。

b. わたしたちが一人の新しい人のために永遠の一の中で守られることができる唯一の道は、同じ事、すなわち神のエコノミーを教えることです——ローマ 15:6。

II. 使徒行伝が見せているのは、神の行動を遂行して新約エコノミーを成就する神の定められた道が、完全に三つの主要な実質、すなわち祈り、その霊、御言によるということです :

A. 祈り、その霊、御言は、主の回復における力の三つの実質です——使徒 1:8, 14. 4:31. 6:4, 7. 12:24. 19:20。

B. わたしたちは、力としてのその霊を持って御言を伝搬するように祈らなければなりません—— 6:7. 12:24. 19:20. I テモテ 2:1-4, 8. エペソ 6:17-18. 参照、I テモテ 5:17-18 :

1. わたしたちは、自分自身が聖なる御言で浸透され、構成され、さらには浸透されなければなりません。わたしたちは負担を持って福音を宣べ伝えるなら、御言へと入って、御言を知る人でなければなりません——コロサイ 3:16。

2. わたしたちは、自分の全存在が光の中へとともたらされ、彼によって対処されて、力の人となり、内側も外側も、本質上もエコノミー上も、その霊に満ちているようにと、主に求めるべきです——エペソ 5:18. 使徒 2:38. 5:32 後半. 4:8, 31. 13:9, 52。

C. 初期の弟子たちは地上での主の行動を遂行するのに、もし異なる方法、手段、媒介、実質を持ったなら、一つ思いを維持することはできませんでした。唯一の一つ思いを維持するために、わたしたちはみな同じ方法で同じ事を行なうことを学ばなければなりません—— 1:14. 4:31。

D. わたしたちは、祈り、その霊、御言以外の方法を取ることを考えてはなりません。他のどの方法を取ることも、異議と分裂を引き起こします。

E. 使徒行伝は、使徒たちが決して祈りなしに何の働きも開始しなかったことを見せています。彼らは事を行ないたいときはいつも、彼らの祈りによって自らを停止し、神に道を与えて、彼らの中にへと入って来て、彼らを満たし、彼らの全存在に浸透していただき、彼らのすべての活動が、活動する神の活動となるようにしました—— 1:14. 2:1-4, 16-17 前半. 4:24-31. 10:9-16. 12:4-14. 13:1-4. 16:23-26. 22:17-21 :

1. わたしたちは主の働きにおいて主と一になるために、自分自身を神の中へと祈り込み、神をわたしたちの中へと祈り込んで、神とミングリングされる必要があります——マタイ 6:6。

2. 祈ることが意味するのは、自分自身を停止し、主から離れて何も行なわず、彼が

わたしたちを通して彼の働きを行なうことができるようにすることです—— 14:22-23。

3. 祈ることが意味するのは、わたしたちが無であって、何もできないことを認識することです。祈りは真に自己を否むことです——ガラテヤ 6:3. 参照、マルコ 9:28-29。

4. 主の御名を呼び求めることによって祈ることは、自分自身を否み、「もはやわたしではありません、キリスト」と宣言することです——ガラテヤ 2:20 前半。

Ⅲ. 家で集会することは、クリスチャンが共に集まる方法であり、神の新約エコノミーに符合します：

A. これはユダヤ人が会堂で集まる方法と異なります：

1. 信者たちは家から家でパンをさき、共に祈りました——使徒 2:46。

2. 彼らはまた家から家で福音を告げ知らせ、イエスがキリストであると教えました。福音はあらゆる家で宣べ伝えられることができ、またそうされるべきです—— 5:42。

3. パウロは家から家で信者たちを教え、訓戒したことについて語りました—— 20:20。

B. これは諸召会で継続的で普遍的な実行となりました——参照、ローマ 16:5. I コリント 16:19. コロサイ 4:15. ピレモン 2 節。

C. 召会の増し加わりと開展の基礎は、家で小組、バイタルグループの集会を設立することです：

1. 家での小組は人々をとどめることができます。

2. 家での小組は家庭養育の性質ですが、召会の合同集会と務めの集会は学校教育の性質です。召会が良く前進するために、わたしたちは家庭養育のために小組を持たなければならず、また真理を教育する合同集会を持たなければなりません——参照、I コリント 14:26. 使徒 19:9 とフットノート 2. 20:7-9. 28:30-31：

a. わたしたちは均衡がとれている必要があります。なぜなら大集会所はわたしたちを助けて、さらに良い結果を得させることができるからです。そうでないと、たとえわたしたちが絶えず家で人を生み、養うことができて、「大学」としての大集会所があって、彼らを教え成就しなければならないからです。

b. 家の原則は今日なおも適合しますが、これは召会が常に分離して集会することを意味するものではありません。事実、すべての信者が定期的に一つ所に集まることは「重要であり、大きな益があります」——I コリント 14:23 前半。

3. 小組の「守る」機能は、聖徒たちを支え、挽回することです。

4. 小組の「攻める」機能は、福音を宣べ伝えることです。

D. あらゆる信者は主の証し人、殉教者であって（使徒 1:8）、自分が「見た……聞いた」キリストを他の人に分け与え、証しするべきです（4:20. 22:15. I ヨハネ 1:1-3）。